

# PF 懇談会だより

## PF 懇談会 2008 年度第 1 回幹事会議事録

日時：2008 年 5 月 19 日（月）10 時 30 分～12 時 30 分

場所：KEK4 号館 2 階輪講室 1

出席者：三木邦夫，朝倉清高，手塚泰久，中野智志，五十嵐教之，栗栖源嗣，兵藤一行，千田俊哉，足立伸一，谷本育律，岡本 薫，若槻壮市，野村昌治，(13 名) 森 史子（事務局）

### 1. 会長，幹事自己紹介

### 2. PF 懇談会の役割，各幹事の役割

### 3. 2008-2009 年度の課題

#### 3-1. UG，メタ UG と PF とのインターフェース

##### 3-1-1. PF の BL 統廃合に伴うユーザー側の意見取りまとめと施設側との調整について

- ・現在 BL-13A,B,C において，BL 統廃合に関する施設とユーザー間の調整が行われている。懇談会長も前回の話し合いに同席した。
- ・高圧 UG は BL-14C2 の大型プレス MAX-III を NE 棟に移設するという PF からの提案に同意しているが，代表の竹村氏より，高圧 UG として，その移転場所については，NE9 ではなく，NE7 への移転を希望するという要望が，2008 年 5 月 2 日付で下村所長宛に提出された（高圧 UG，43 名の連名）。PF 懇談会としてもこの要望について検討し，運営委員，UG 代表者，懇談会幹事から意見聴取を行い，懇談会全体としてこの要望を支持することとした。近日中に，懇談会長名で高圧 UG の要望を支持する旨の要望書を下村所長宛に提出する予定である（5 月 20 日に提出済み）。午後に予定されている運営委員会でも，この件について確認を行うこととした。

##### 3-1-2. 協力 BL，教育用 BL について

- ・若槻施設長より，協力 BL の今後のあり方に関する議論の敲き台（PF 執行部案）について報告があった。これまでの協力 BL においては，建設・運営を担当している運営 G と各 UG は必ずしも対応関係がなく，各協力 BL の運営 G と PF 施設側が個別の対応を行わざるを得なかった。今後は，協力 BL の運営 G が UG に内包され，PF 施設は UG と覚書を交わして UG から委託された運営 G がステーション（or 装置）を運営するという形態を提案する。協力 BL を UG と PF 懇談会の中に位置づけるという案である。まだ PF 内部でも十分に議論ができていない段階ではあるが，PF 懇談会で引き続き議論していただきたい。
- ・教育用 BL については，大学側からいくつかの提案があるが，その運営方法の議論を始めようとしているところである。

- ・協力 BL の評価を考えた場合に，個々の運営 G を対象とするのではなく，UG を対象としたほうがよいのではないか。
- ・建設費，維持費，マンパワーの分担の仕方，協力 BL のカテゴリ分けを行うことを想定している。

#### 3-2. 各種要望書の提出について

- ・昨年度は，運転時間の確保と KEK ロードマップに関する要望書を機構に提出した。

##### 3-2-1. 5 月中に行った，要望書とアンケートについて

- ・高圧 UG の NE7 建設要望書を下村所長に提出した。
- ・3 月末のチームタイムの利用についての希望調査を行った。
- ・2008 年度は，BL 建設などにより，前期のチームタイム配分が例年より少なくなっており，それを補うために 3 月末まで運転を延長する案が KEK 内部のスケジュール委員会で提案されている。その際に，ユーザーが 3 月末の利用が困難であるような状況があると運転時間を延長する意味がないので，PF 懇談会を通じて，3 月末の BT 利用に関するアンケートをすることにした。
- ・アンケートの結果，3 月末であっても，チームタイム利用の需要は高いことがわかった。また，PF シンポジウムは，PF 運転中であってもよいという意見が多かった。
- ・PF シンポジウムを準備する内部スタッフにとっては，リングが運転休止しているほうが対応しやすい。PF シンポジウムの時期だけ，リングを運転休止にすることも検討する。
- ・KEKB の運転時間は今年度大幅に削減されており，PF の運転時間についてもまだ不確定要素が多い。

##### 3-2-2. KEK ロードマップ，ERL 計画，KEK 中期計画等への要望の取りまとめについて

- ・いくつかの局面で，要望書の提出が必要となると思われる。要望の提出時期を逃さないことが重要だろう。
- ・ERL 将来計画に対して，PF 懇談会として利用幹事を中心に積極的にコミットしてゆく。要望を提出する対象としては，PF だけでなく，学会，文科省，大学など幅広く捕らえる。

#### 3-3. PF シンポジウム，基礎講習会の企画について（行事幹事）

- ・PF シンポジウムは年々参加者が増え，活性化されている。ポスターセッションの時間を十分確保したい。
- ・基礎講習会は，参加者が減少傾向にある。何らかの活性化が必要。実習を含む形式に変更することを検討。
- ・基礎講習会について，学部学生や修士学生だけでなく，放射光初心者に対して広く募集してはどうか。
- ・PF の先端研究施設共用イノベーション創出事業とのタイアップの可能性も検討する。
- ・初心者講習を放射光学会主催で行う（サマースクールみたいなもの）という企画が検討されている。
- ・過去の講習会資料をファイル化して，WEB 経由でダ

ダウンロードできるように準備することを検討することとした。

### 3-4. 1月のJSR年会の拡大運営委員会、PF研究会の活性化

- ・ 拡大運営委員会の名称を親しみやすいものに変更する、議題の事前配布を行うなど、対応策を検討する。
- ・ PF研究会の提案数が減少している。提案を増やすよう、さらに会員に働きかける。

### 3-5. 平成20年度予算案、名簿に関するアナウンス

- ・ 平成20年度予算案を例年通り作成した。午後の運営委員会で承認を受ける。
- ・ PF懇談会のWEB名簿への掲載許可確認を会員に対して行う。返事のない場合は、了承したとみなし、名簿情報を掲載する。
- ・ 返事がないものを了承とみなすのは、法律的に問題がないかどうかを確認して欲しい。
- ・ 名簿の確認方法は是非について、KEK総務課で確認することとした。

### 3-6. PF施設より

- ・ ユーザー数が増えているにもかかわらず、論文登録数が減っている。登録数を増やすように、PF懇談会からも働きかけることとした。
- ・ 大学共同利用と共用促進法について、確認したい。

### 3-7. PF懇談会会員の拡大について

- ・ 共同利用者が3000人強いるのに対して、PF懇談会員は600人程度しかいない。会員数が少ないのは、明確な会員のメリットがないことが問題であろう。
- ・ 例えばPF懇談会員のメリットとして、「宿舍の優先予約」「会員優先ユーザーラウンジの設置」「会員優先自転車設置（PF懇談会の看板を付け、走る広告塔とする）」「ビームタイム配分時に会員に何らかの優位性をもたせる」などはどうか。
- ・ 「ビームラインの利用時間、論文登録数などをマイルージ・ポイントとして利用する。」「ビームタイムのキャンセルを会員に優先的に連絡する。」なども考えられる。
- ・ 会員への優先情報の提供。
- ・ 懇談会の広報をより強化したほうがよい。
- ・ 具体的な検討を利用幹事が中心となって進めることとした。
- ・ ビームタイム利用記録での要望が多いのは、自転車の貸借（自転車があるのに鍵がない）と休日の食事の問題である。
- ・ 初年度年会費無料としてはどうか。

### 4. その他

- ・ 特になし

## 2008年度PF懇談会 第1回運営委員会 議事録

日時：2008年5月19日（月）14時00分～16時00分

場所：KEK4号館2階輪講室1

出席者：【所外委員・幹事】三木邦夫（会長）、朝倉清高、手塚泰久、近藤 忠、高橋敏男、中川敦史、野田幸男、馬場祐治、藤森 淳、村上洋一、百生 敦、中野智志、栗栖源嗣、千田俊哉、岡本 薫

【所内委員・幹事】飯田厚夫、伊藤健二、稲田康宏、春日俊夫、河田 洋、小林克己、本田 融、五十嵐教之、兵藤一行、足立伸一、谷本育律、若槻壮市、野村昌治、原田健太郎、森 史子

#### 1. 会長、幹事、運営委員自己紹介

#### 2. PF懇談会の役割

#### 3. 幹事報告

##### 3-1. 会計幹事報告（H19年度決算、H20年度予算）

##### 3-2. 広報幹事報告（名簿の掲載承認に関するメール連絡について）

- ・ PF懇談会のWEB名簿への掲載許可確認を会員に対して行う。返事のない場合は、了承したとみなし、名簿情報を掲載することとした。

#### 4. H20-H21年度の課題

##### 4-1. UG、メタUGとPFとのインターフェース

##### 4-1-1. PFのBL統廃合に伴うユーザー側の意見取りまとめと施設側との調整について

- ・ 現在BL-13A,B,CのBL統廃合に関して、施設とユーザー間の調整が行われていることが報告された。
- ・ 高圧UG代表の竹村氏より、BL-14C2の大型プレスMAX-IIIのARのNE地区への移転場所として、NE9ではなくNE7を希望するという要望が2008年5月2日付で下村所長宛に提出された（高圧UG、43名の連名）。PF懇談会としてもこの要望について検討し、運営委員、UG代表者、懇談会幹事から意見聴取を行い、懇談会全体としてこの要望を支持することとした。近日常に、懇談会長名で高圧UGの要望を支持する旨の要望書を下村所長宛に提出する。（5月20日に提出済み）

##### 4-1-2. 協力BLについて

- ・ 小林克己共同利用GLより、協力BLの今後のあり方に関する議論の敲き台の提案があった。これまでの協力BLにおいては、建設・運営を担当している運営Gと各UGは必ずしも対応関係がなく、各協力BLの運営GとPF施設側が個別の対応を行ってきた。今後は、協力BLの運営GがUGに内包され、PF施設はUGと覚書を交わしてUGから委託された運営Gがステーション（or装置）を運営するという形態が提案された。

#### 【質問・コメント】

- ・ 協力BLのあり方の議論では、PF懇談会利用幹事にも積極的に関与していただきたい。

- ・今年度前半に協力BLの枠組みを固めて、後半には個別UGとの交渉を開始したい。
- ・UG見直しの時限を5年と定めているが、協力BL覚書の時限との整合性を考慮する必要がある。
- ・協力BLの覚書はどの程度のレベルのコミットメントを前提としているか。所属機関に兼業届を提出する必要があるようなものか。もしくは、より個人レベルで関与することを想定しているのか。
- ・兼業届の必要が生じるようなものは想定していない。個人というよりは、施設とUGとの関係を規定するものである。
- ・建設費、維持費、マンパワーの分担の仕方、協力BLのカテゴリー分けを行うことを想定している。

#### 4-1-3. BL 統廃合案、論文登録、教育用BLについて（若槻施設長）

- ・PF内部で検討しているBL統廃合案（配布資料）が示された。今後、懇談会を通じて、UGとの対話、交渉を進める予定である。
- ・現在AR-NE棟内で進行しているBL再配置作業の進捗状況について説明が行われた。
- ・論文登録数が最近減少傾向にあることが報告された。新規登録が遅れていることが予想されるので、新規登録を促進していただきたい。
- ・教育用BLについては、大学側からいくつかの提案があるが、その運営方法について議論を始めようとしているところである。

#### 4-2. 各種要望書の提出について

##### 4-2-1.5月中に行った、要望書とアンケートについて

- ・PF懇談会員に対して、今年度末（3月末）のチームタイムの利用希望調査を行った。アンケートの趣旨と結果について、五十嵐利用幹事が報告した。
- ・2008年度は、BL建設などにより年度前半のチームタイム配分が例年より少なくなっており、それを補うために3月末まで運転を延長する案がKEK内部のスケジュール委員会で提案されている。その際に、ユーザーが3月末の利用が困難であるような状況があると運転時間を延長する意味がないので、PF懇談会を通じて、3月末のBT利用希望に関するアンケートをすることにした。
- ・アンケートの結果、3月末であっても、チームタイム利用の需要は高いことがわかった。また、PFシンポジウムは、PF運転中であってもよいという意見が多かった。
- ・PFシンポジウムを準備する内部スタッフにとっては、リングが運転休止しているほうが対応しやすい。PFシンポジウムの時期だけ、リングを運転休止にすることも検討する。

##### 【質問・コメント】

- ・もし、3月末に運転期間を短縮した場合に、余剰電気代はPFに還元されるのか。
- ・還元されるように最大限努力する。しかし、機構内の

電気代の積算は単純ではなく、今のところ還元されることを保証はできない。

- ・KEKBの運転時間は今年度大幅に削減されており、PFの運転時間についてもまだ不確定要素が多い。
- ・アンケートの結果を集約しないのか。懇談会運営委員会として、なんらか提言をまとめてはいかかか。
- ・意見分布がかなり幅広いので、無理に意見集約する方向は取らず、集計結果をそのまま施設側に伝えることとしたい。

#### 4-2-2. KEK ロードマップ、ERL 計画、KEK 中期計画等への要望の取りまとめについて

- ・いくつかの局面で、要望書の提出が必要となると思われる。要望の提出時期を逃さないよう、懇談会として対応する。
- ・ERL 将来計画に対して、PF 懇談会として利用幹事を中心に積極的にコミットする。

#### 4-3. PF シンポジウム、基礎講習会の企画について

- ・PF シンポジウムは年々参加者が増え、活性化されている。ポスターセッションの時間を十分確保したい。
- ・基礎講習会については、参加者が減少傾向にある。何らかの活性化が必要。実習を含む形式に変更することを含めて検討する。

##### 【質問・コメント】

- ・ポスターセッションの時間を増やすためには、シンポジウムの日数を増やすことを検討する必要があるだろう。

#### 4-4. 1月のJSR年会の拡大運営委員会、PF研究会の活性化

- ・拡大運営委員会の参加者が減少傾向にある。名称をより参加しやすいものに変更する、議題の事前配布を行うなど、対応策を検討する。
- ・PF研究会の提案数があまり多くない。提案を増やすよう、さらに懇談会員に働きかけて、より活発に活用していただきたい。

##### 【質問・コメント】

- ・本日議題に取り上げられている項目は、今後、懇談会として個別に対応してゆくということによいか。
- ・そうである。その際に優先順位付けは必要であろう。

#### 4-5. 大学共同利用と共用促進法について（若槻施設長）

- ・KEKは大学共同利用機関であるが、SPring-8には共用促進法が適用されている。J-PARCでの共同利用については、原研側が共用促進法の適用を検討しており、KEKの関わる共同利用の一部に共用促進法が適用される可能性がある。今後、放射光利用に関しても大学共同利用のあり方が議論になる局面が想定されるので、早めに放射光コミュニティーの方と情報を共有したい。放射光研究における大学共同利用のメリット、ボトムアップの重要性等をより明確化してゆく必要がある。PF懇談会とPF施設側との対話がますます重要になる。

##### 【質問・コメント】

- ・PF懇談会として、文科省、大学、学会等で大学共同利

用の重要性を訴えることが必要になるだろう。

- ・施設側で起こっていることを、PF 懇談会としてリアルタイムに把握できない部分も多いだろう。要望書等を出すために適切な時期を判断する際には、施設側から適切な情報を公開していただきたい。

#### 4-6. PF 懇談会会員の拡大について

- ・PF 共同利用者は3000人強であるのに対して、PF 懇談会会員は600人程度しかいない。会員数が少ないのは、明らかな会員のメリットがないことが一つの問題であろう。
- ・例えばPF 懇談会員のメリットとして、「宿舍の優先予約」「会員用ラウンジの設置」「会員優先自転車の設置（PF 懇談会の看板を付け、走る広告塔とする）」「チームタイム配分時に会員に何らかの優位性をもたせる」などは検討できないか。

#### 【質問・コメント】

- ・PF 施設を初めて利用する人に、PF 懇談会の勧誘のための印刷物を送ってはどうか。
- ・PF 懇談会のミッションに直接関わるメリットとして、チームタイム配分に対するメリットを考えられないか。
- ・PF 実験ホールへの廊下に、PF 懇談会入会に勧誘するポスターを掲示する。懇談会員のメリットをポスターに記載できるとよいのではないか。
- ・学生会員を勧誘するためには、より具体的なメリットがあるほうがよいだろう。（学生会員の会費は無料）
- ・初年度年会費無料としてはどうか。
- ・具体的な検討を利用幹事が中心となって進めることとした。

#### 5. その他

- ・今回は8月から9月ごろ、UG 代表者会議との共催の運営委員会を企画する予定。

## 高圧グループからの要望書

平成20年5月2日

高エネルギー加速器研究機構  
物質構造科学研究所 所長  
下村 理 殿

PF 懇談会 高圧ユーザーグループ代表 竹村謙一

PF 懇談会および高圧ユーザーグループ（UG）の活動に日頃からご理解とご支援を賜りありがとうございます。高圧UGは、PFでの共同利用実験により良質な実験データを得て、多くの価値ある研究成果を発信するべく努力しております。

さてこのたびPFビームライン再編計画の一環として、PFのBL-14C2高圧ビームラインに設置してある大型プレ

スMAX-IIIをAR-NE棟へ移す提案がPF施設長よりなされました。移設の条件を検討した結果、高圧UGはARへの移設案に同意することを決定しました。しかし移設先について一つの問題があります。移設先にはNE7とNE9の2カ所が候補に挙がっています。場所の利便性とスペースの広さを考えて、高圧UGはNE9ではなくNE7への移設を強く希望するものですが、NE7には現在、素核研の測定装置が置かれており、それが移動しない限りMAX-IIIの移設は不可能な状態です。PF施設長の説明によれば、NE7の素核研の測定装置は休止状態にあり、当面は具体的な使用計画はないとのことですので、MAX-IIIをNE7へ移設できますよう、素核研の測定装置の移動を要望いたします。高圧UGがNE7を必要とする理由を以下にまとめます。ご検討のほどよろしく願いいたします。

1. NE9はNE棟ホールの端にあり、頭上には地上からの物品搬入口とクレーンがある。そのため、一度ハッチを作ると物品を吊り降ろす場所が著しく狭くなり、物品の搬入に支障を来す。大型装置の修理・改良・更新などを行う上でNE棟全体にとり問題となる。
2. MAX-IIIではマルチアンビルを使って主に高温高圧下の融体の構造・密度・粘度の測定が行われており、地球内部を構成する物質への理解が進んでいる。今後、X線イメージング、X線トモグラフィーおよびX線回折実験を用いたマントル鉱物のレオロジーに関する研究など新たな研究領域の高温・高圧実験を発展させていくためには、金型の入替えや様々な測定装置の導入などが必要となるため、ハッチ内に広い作業スペースを確保したい。また地球の内部構造の研究にはさらに高い圧力での実験が重要であり、より大型のプレスを導入する可能性も検討されている。ハッチの大きさが制約されるNE9では以上の要請を満たすことがむずかしく、広いハッチが設置できるNE7にMAX-IIIを移設することを要望する。

## PF 懇談会からのお願い

平成20年5月19日

高エネルギー加速器研究機構  
物質構造科学研究所  
所長 下村 理 殿

PF 懇談会・会長 三木邦夫

このたび、平成20年5月2日付で、PF 懇談会・高圧ユーザーグループ（代表・竹村謙一氏）より、PFビームライン再編計画に対応するため、現在BL-14C2高圧ビームラインに設置してある大型プレスMAX-IIIのAR-NE棟への移設に同意したことに関して、移設先として希望して

いる AR-NE7 への移設を速やかに実現するために、現在 NE7 に設置され休止状態にある素核研の測定装置の移動をお願いする要望書が提出されております。

PF 懇談会といたしましては、この要望書に記載されております高圧ユーザーグループが NE7 を希望する理由等を協議いたしました結果、高圧ユーザーグループからの要望を支持し、素核研の測定装置の移動が行われますよう、PF 懇談会の立場からもお願いいたしたく存じます。

高圧ビームラインの大型プレス MAX-III の NE7 への設置を速やかに実現するために、よろしくご検討下さいませようお願い申し上げます。

以上

## 名簿登録のお願い

PF 懇談会広報幹事 千田俊哉

PF 懇談会会員の皆様

昨年度から運用を開始しました web 名簿も、公開から 8 ヶ月が経ちました。現在、web 名簿において公開されている会員の情報は、前回の希望調査の結果に基づいておりますが、名簿に掲載されている人数が全会員数に比べて少なく、名簿としての機能を十分に果たしているとは言い難い状況です。そこで、名簿情報の更新のお願い、web 名簿アクセスに必要な ID とパスワードのお知らせも兼ねて、今一度名簿の情報公開に関するアンケートをさせていただきます。

前回と同様、名簿公開の趣旨にご賛同頂き、その旨お返事を頂いた方に関しては、名簿情報の完全な公開をさせていただきますが、お返事が頂けなかった方に関しても、前回（2008 年 3 月）の PF 懇談会総会で承認頂いた通り、部分的に名簿情報の公開をさせていただく事といたします（e-mail と電話番号以外の情報の公開となります）。また、情報公開を希望されない会員の皆様に関しましては、メールでその旨お知らせください。名前を含めた全てのデータの名簿への掲載は行いません。既に全ての名簿情報が掲載されている会員の皆様に関しましては、ご連絡がない限りは、現在のままの掲載とさせていただきます。

なお、名簿のアクセスには、ID とパスワードが必要で（メールで既にお知らせしてあります）。個人情報の保護に関しましては、前回の総会でご承認いただいた通り、高エネルギー加速器研究機構の個人情報保護規定に準拠して保護をしております。ご自身の名簿情報に関して記載の変更を行いたい会員の方、情報の確認を行いたい方は、事務局・森（pf-sec@pfist.kek.jp）までご連絡を頂ければ、現在の情報をお送りします。情報が古くなっている会員の方がおられましたら、ご連絡いただき情報の更新にご協力頂ければ幸いです（懇談会会則細則 2 条）。

なお、現在 ID とパスワードに関しては、個人 ID と個

人パスワードへと移行すべく作業を行っており、セキュリティー面からもしっかりしたものになります。PF 懇談会の活動を活発にする意味でも名簿は重要ですので、なるべく多くの会員の方の情報を載せていきたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

※情報公開不可及び変更に関する返信の締切：8 月 29 日（金）

参考：PF 懇談会会則

細則第 2 条 事務局は会員名簿を整備し、定期的にその更新を行う。個人情報の取り扱いに関しては、KEK の個人情報取り扱い規程に準拠して行う。

## PF 懇談会年会費納入のお願い

PF 懇談会会計幹事 谷本育律

一般会員の方には 20 年度年会費 2000 円の納入をお願いいたします。郵便振込の方には 7 月に振込用紙をお送りしましたので、8 月中を目処にお振り込みください。自動振替の方は 8 月 25 日（月）にご指定の金融機関から引き落とされますので、残金の確認をお願いいたします。

PF 懇談会では会員の皆様に会費の自動振替をお願いしております。経費節約と事務手続きの簡素化の為にできるだけご協力いただきますようお願いいたします。振替ご希望の方は事務局にご連絡ください。

## 「平成 20 年度放射光利用研究基礎講習会」 — 放射光について知りたい！ 夢の光ってなんだろう？ —

日時：2008 年 9 月 11 日（木）13:15 ~ 12 日（金）11:50

場所：高エネルギー加速器研究機構、

4 号館 1 階セミナーホール

〒305-0801 茨城県つくば市大穂 1-1

内容：新たに放射光利用研究を始めようとしている方を主な対象として、学部 4 年生から修士 1 年生程度の内容で、最新の放射光技術と利用研究について、専門の方々にわかりやすく解説していただきます。最新の情報はホームページ（<http://pfwww2.kek.jp/pf-kondankai/kondan/katsudo/kousyukai.html>）に掲載いたしますのでご参照下さい。

主催：PF 懇談会

### プログラム案

1 日目（9 月 11 日）

12:30 受付開始

I. 放射光施設

13:15 「放射光施設の紹介（仮題）」

足立伸一（物構研）（15分）

13：30 「放射光源とは何か1（仮題）」

原田健太郎（物構研）（50分）

## II. 放射光が拓く物質・生命のサイエンス

14：30 「物性を支配する電子（仮題）」

足立伸一（物構研）（50分）

15：30 「化学反応を観る（仮題）」

稲田康宏（物構研）（50分）

16：30 「生命の仕組みを知る（仮題）」

加藤龍一（物構研）（50分）

17：20 1日目終了

18：30 参加者と講師・PFスタッフとの懇親会

2日目（9月12日）

## III. 放射光の基礎技術と応用研究

09：00 「放射光源とは何か2（仮題）」

山本 樹（物構研）（50分）

10：00 「真空紫外・軟X線ビームラインの基礎と分光

研究（仮題）」 小野寛太（物構研）（50分）

11：00 「X線ビームラインの基礎とイメージング研究

（仮題）」 平野馨一（物構研）（50分）

11：50 2日目終了

13：30 昼食後PF見学会（希望者のみ）

**参加費：**PF 懇談会会員および高エネルギー加速器研究機構メンバーは無料。

協賛団体会員：2000円（テキスト代を含む。学生は1000円）。

非会員：4000円（テキスト代を含む。学生は1000円）。

**申込み締切り：**2008年9月3日（水）、定員40名。

**参加申込み方法：**ホームページの「参加申込みフォーム」にて必要事項を入力して申込みください。

**テキストのみの申込み：**希望者にはテキストを1部1000円で販売します。ホームページの「参加申込みフォーム」にて申込みください。

**宿舎予約：**高エネルギー加速器研究機構の宿舎に宿泊を希望される方はホームページを参照してお早めに申込みください。

**問合せ先：**高エネルギー加速器研究機構  
PF 懇談会行事幹事 兵藤 一行  
TEL: 029-864-1171, FAX: 029-864-2801,  
E-mail: kazuyuki.hyodo@kek.jp

## PF 懇談会入会のご案内

PF（Photon Factory）懇談会は放射光を利用する研究活動を効果的に推進するため、PFの発展、会員相互の交流、利用の円滑化を図る利用者団体です。主に次の様な活動を行っています。

- ・会員相互の情報交換、会員の放射光利用に関する要望のとりまとめ
- ・ユーザーグループ活動の促進
- ・PFシンポジウム、放射光基礎講習会などの学術的会合の開催
- ・PF将来計画の立案とその推進

PFでの皆様の研究活動をより多いものにするために、ぜひPF懇談会にご入会下さい。PF懇談会には、分野や測定手法ごとにユーザーグループが設置されています。各ユーザーグループでの活発な活動をお願いいたします。

詳しくはPF懇談会ホームページをご覧ください。

<http://pfwww2.kek.jp/pf-kondankai/index.html>

★会員の皆様への情報発信の一環として、PF懇談会がPFニュースの経費を一部負担しています。

〈お問い合わせ〉

PF 懇談会事務局 森 史子

TEL: 029-864-5196 Email: pf-sec@pfiqst.kek.jp